第1回スポーツ施設整備検討委員会の開催について

日時：令和8年11月25日（水）15時から17時

場所：ホテル日航オアシスタワー　紅梅の間

【次第】

1　開会

2　委員自己紹介

3　委員長選出 ほか

4　議事 「今後のスポーツ施設のあり方」について

【委員（11名）】

氏名	所属団体等
荒 木　重 雄	株式会社スポーツマーケティングラボラトリー　取締役
池　田　　雄	株式会社大銀経済経営研究所　代表取締役社長
池 部　純 政	社会福祉法人太陽の家　健康支援課長
上　林　　功	日本女子体育大学　体育学部　教授
大　塚　　浩	大分県商工会議所連合会　専務理事
大 橋　弘 明	立命館アジア太平洋大学　サステナビリティ観光学部　教授
久 保　絵 里	うさ児童館　館長
笹 田　修 司	公益社団法人ツーリズムおおいた　DMO 事業本部長
馬場　真由美	大分県商工会連合会　専務理事
宮 成　康 蔵	公益財団法人大分県スポーツ協会　常務理事
吉 村　充 功	日本文理大学　副学長

敬称略・50 音順

※会議当日の取材は、会議冒頭及び終了後のぶら下がり対応のみとなります。

※当日の会議資料及び議事録は、後日、大分県ホームページで公開します。

元気　県民が元気に活躍できる大分県づくり

政策名	施策名	頁
1 自ら考え・動き・みんなで実現する元気な農林水産業	(1) 園芸・畜産の生産拡大を中心とした農業の成長産業化	79
	(2) 循環型林業の確立による林業・木材産業の持続的な発展	81
	(3) 環境変化に対応し豊かな海を次世代につなげる水産業への転換	83
2 力強く元気な経済を創出する産業の振興	(1) 中小企業の経営基盤の強化とイノベーションの促進	85
	(2) ものづくり産業の「稼ぐ力」の向上	87
	(3) 地域を支える商業の活性化とサービス産業の革新	89
3 地域の特色を活かしたツーリズムの推進と観光産業の振興 ～世界に選ばれるおんせん県おおいた～	(1) 地域に元気をもたらす国内誘客・海外誘客（インバウンド）の推進	91
	(2) 住んでよし、訪れてよしの持続可能な観光地域づくり	93
4 海外の成長を取り込み共に発展する大分県の実現	(1) 企業の海外展開と県産品の輸出の促進	97
	(2) 外国人に選ばれ、共生できる大分県づくり	99
5 誰もが自分らしく、いきいきと活躍できる社会づくり	(1) 多様な人材が活躍できる環境づくりと産業を支える人づくり	101
	(2) 女性が輝き活躍できる社会づくりの推進	105
6 芸術文化による創造県おおいたの発展	(1) 芸術文化を享受できる機会の充実	107
	(2) 芸術文化の創造性を活かした地域づくり	109
7「する」「みる」「ささえる」スポーツの推進	(1) ライフステージに応じた県民スポーツの推進	111
	(2) スポーツによる地域の元気づくりの加速	113

【元気７】「する」「みる」「ささえる」スポーツの推進

（2）スポーツによる地域の元気づくりの加速

主な担当部局：企画振興部

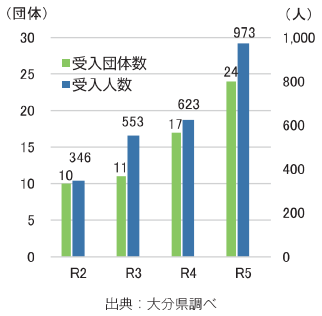
10年後の目指す姿

◆国際スポーツ大会や事前キャンプ等の開催地として定期的に本県が選ばれており、国内外との交流人口が拡大し、地域が元気に満ちあふれている。
◆国内のプロスポーツチーム等が県内各地で合宿を行い、選手と住民が活発に交流している。
◆県内のプロスポーツチーム等による地域に密着した活動を通じて、県民がスポーツを身近に感じ、親しむようになっている。

現状と課題

■スポーツには、観る人を夢中にし、感動させる力があります。スポーツが持つ魅力や特性を最大限に活用し、地域の元気を創出していく必要があります。
■国際自転車ロードレースであるツール・ド・九州※1など、国際スポーツ大会の開催は、交流人口の拡大や多大な経済波及効果をもたらすことから、さらなる誘致強化が必要です。
■大規模イベントを大分スポーツ公園で開催する際のアクセス改善が求められています。
■国内のトップアスリート等の合宿は、選手と住民のふれあいによる地域活性化にもつながるため、引き続き、誘致に取り組むことが必要です。
■県内には、地域に密着した様々なプロスポーツチームがあります。引き続き、地域との交流を進めるとともに、若い年代を中心としたファン層を拡大していくことが求められています。

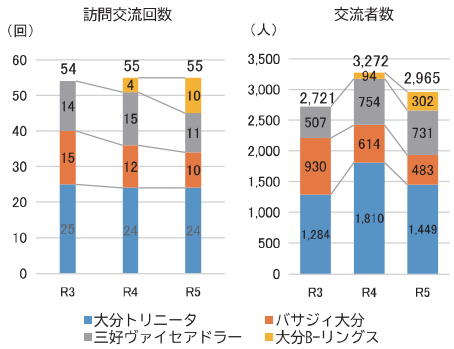
大分県スポーツ合宿誘致推進協議会
合宿受入年度別実績



出典：大分県調べ

※これまでの主な合宿実績
ラグビー男子15人制日本代表、
ハンドボール女子日本代表、
青山学院大学　等

学校訪問交流回数と人数



出典：大分県調べ

※1　九州の経済団体トップと各県知事で構成される九州地域戦略会議において、ラグビーワールドカップ2019™のレガシーの持続的継承や九州でのサイクルツーリズムの推進、災害が相次いだ九州の復興を象徴するイベントとして開催を決定したUCI（国際自転車競技連合）公認のサイクルロードレース

主な取組

❶ 大規模スポーツイベントの開催

・ラグビーワールドカップ2019™などのレガシーを活かした新たな国際大会・大規模大会の誘致
・大分国際車いすマラソンなど、国内外から多くのトップアスリートが参加する大規模大会の継続・充実
・まちづくりや地域活性化の核となるスタジアム等の実現


大分国際車いすマラソン

❷ ナショナルチームやプロスポーツチーム等の合宿誘致

・優れたスポーツ施設や日本一の温泉などの恵まれた自然を活かしたキャンプ・合宿の誘致
・多様なスポーツ合宿に対応できる環境整備の促進


ツール・ド・九州2023大分開催

❸ スポーツツーリズム※2の推進

・大規模スポーツイベントの開催を通じた地域交流や誘客の促進
・キャンプ・合宿で訪れた選手と地域住民との交流機会の創出や交流の継続
・キャンプ・合宿施設、宿泊施設、観光情報等の一体的な情報発信


ハンガリー・アメリカ女子
水球代表の県内合宿

❹ プロスポーツの観戦機会の拡大と地域交流の推進

・各種イベントと一体となった県民DAYの開催など、県民のプロスポーツ観戦機会の拡大
・学校訪問や地域イベント参加など、プロスポーツチームと地域との交流機会の拡大
・チームのPR動画の放映や観戦者招待など、地域密着型プロスポーツへの支援
・プロスポーツの持つ集客力や知名度を活用した観光等の情報発信


大分トリニータによる訪問交流

目標指標

指　標　名	基準値	目標値					
	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R15年度
プロスポーツチーム等による合宿誘致件数（件）	24	25	26	27	28	30	42
プロスポーツチーム等による地域との交流件数（件）	79	81	83	85	87	90	107

※2　スポーツを「観る（観戦）」「する（楽しむ）」ための移動だけでなく、周辺の観光やスポーツを「支える」人々との交流等も付加した旅行形態